

第1回「ICT超高齢社会構想会議」議事要旨

1. 日時:平成24年12月7日(金)10:00~12:00

2. 場所:総務省7階省議室

3. 出席者:

(1)構成員

小宮山座長、小尾座長代理、秋山構成員、浅川構成員、飯泉構成員、金子構成員、倉持構成員、近藤構成員、須藤構成員、関構成員、西村構成員、広崎構成員、武藤構成員、茂木構成員

(2)オブザーバ

内閣官房IT担当室、内閣官房医療イノベーション推進室、内閣府政策統括官(共生社会政策担当)付高齢社会対策担当、文部科学省生涯政策局社会教育課、厚生労働省医政局研究開発振興課医療技術情報推進室、経済産業省商務情報政策局ヘルスケア産業課医療・福祉機器産業室、国土交通省都市局まちづくり推進課官民連携推進室

(3)総務省

藤末副大臣、田中総務審議官、桜井情報通信国際戦略局長、阪本政策統括官、谷脇大臣官房審議官、佐藤情報通信利用促進課長、吉田情報流通高度化推進室長

4. 議事要旨:

(1) 開会

(2) 樽床総務大臣挨拶

樽床総務大臣よりビデオメッセージによる挨拶があった。

(3) 藤末総務副大臣挨拶

藤末総務副大臣より挨拶があった。

(4) 議事

① 開催要項、議事の取扱いについて

事務局より資料1-1、1-2に基づき、議事の取扱い、関係省庁のオブザーバ参加等について説明が行われた。

② 事務局説明

事務局より資料1-3に基づき、超高齢社会の現状とICT利活用について説明が行われた。

③ 構成員によるプレゼンテーション

秋山構成員より資料1-4、小尾座長代理より資料1-5、武藤構成員より資料1-6、浅川構成員より資料1-7に基づきそれぞれプレゼンテーションを行った。

④ 意見交換

本会議で検討すべき内容や方向性について、各構成員から以下の意見が出された。

(飯泉構成員)

- ・ 超高齢社会の課題解決に向け、都道府県といった広いエリアでの社会実装を大胆に進め、定点的な調査を進めるべきである。
- ・ 早期の社会実装については、様々な制度やシステムが出来上がる前から、超高齢社会の課題解決に向けた具体的な活用方策を打ち出し、制度・システムの開始とともに活用の社会実装に取り組む課題解決先進地域を作っていくべき。

(西村構成員)

- ・ 子どものいない高齢者が相当増えており、高齢者と若年者の共生、ともに生きるまちがどういったものかについて検討すべきである。
- ・ 超高齢社会においては住まいのつくりも変えていくという発想も重要だと思っており、集合住宅などにおいて、家の中のICTをどうするか、住民同士のICTがどういうふうに展開するかについて検討すべきである。

(金子構成員)

- ・ ICTを活用した取組については、医療をはじめとして様々行われているが、関係者間のソーシャルキャピタルが高まるような取組みを意識して社会とのつながりの促進を進めることで効果が出ることを実証されている。
- ・ ICTを活用した取組が現在多く進んでいる一方で、特に、医療、教育、エネルギーなどの分野で、制度面での障壁が存在している場合が多くある。具体的な取組を進めるとともに、社会的なつながりを有効にするための制度面についても検討し、良いビジョンを形成していきたい。

(茂木構成員)

- ・ 超高齢社会の問題を考えるにあたっては、人々がネットワークを通してお互いを支え合うという「新しい公共」の考え方が重要である。幸福という点については科学的視点においても研究が進んでいるところであるが、人とのきずな、ネットワークの豊かさが重要だと思われる。
- ・ ネットワークの問題への対応は、行政が公共的視点から議論する意味が非常に高い。

(近藤構成員)

- ・ 地域でシニアがシニアに教えるパソコンボランティア活動を行う中で、日本では老人クラブ的なシルバーサービス産業の種が各地に生まれている。一方で、それぞれの取組がなかなか連携しにくいので、海外も含めてこのネットワークを結びつける取組を行っていただきたい。

(広崎構成員)

- ・ 若者と元気なシルバーが共生する新しい社会モデルが必要であり、高齢者の豊富な知識をネットワークでつなぐことで、今まで思いもよらなかった価値が生まれてくる可能性がある。こういった高齢者の知恵をネットワーク化して体系的に活用する仕掛けについて、制度的な裏付けや経済モデルを作っていく必要がある。

(関構成員)

- ・ 我々の団体においては、新しいビジネスの育成に向けた制度検討等を行っており、「イノベーション」や「アントレプレナーシップ」、「グローバリゼーション」といった観点から検討を行っている。超高齢社会においては、高齢者の深い知識と若者をミックスすることで、新しいビジネスを作れるのではないか。

(倉持構成員)

- ・ 超高齢社会においては、過疎地の高齢者など社会的弱者への対応を考えていかなければならない。その環境整備にICTの活用は非常に有効ではないか。インターネットの活用によるビジネスの成功例もあるので、超高齢社会においても活用をお願いしたい。
- ・ 社会的実装においては、目で見て分かる成功の実例を実現することが重要である。

(須藤構成員)

- ・ 介護のデータベースと医療のデータベースを連携させて在宅医療の質を高める研究プロジェクトを行っているが、こういったセーフティネットを都市インフラに組み込んだ上で、「やりがい」「生きがい」を持てるコミュニティ、ビジネスにつなげていく必要がある。

(小宮山座長)

- ・ 日本は議論のレベル、技術力も高く、国民のレベルも非常に高いが、入り口の議論で止まってしまい、その先の実装まで進まないというのが問題である。日本のポテンシャルを活かして前に進むためには、超高齢社会のビジョンを立てるとともに、実装のスピードも上げていく必要がある。
- ・ 超高齢社会のビジョンの要素となる健康医療福祉の分野では、8割の健康な人に対してどういった施策を打ち出していくかが重要であり、それが産業や教育の活性化・高度化につながってくるという視点は極めて重要である。他にも生きがいや就労、地域コミュニティ、生涯学習、サイエンスといった視点が重要である。
- ・ また、個別事業や分野で進められているネットワークの「ネットワーク化」が重要であり、色々な個別ネットワークがある中で、これをどう連携させていくかが重要。

⑤ ワーキンググループの設置とワーキンググループ主査の選出について

座長より本会議を有効に機能させ、専門的な観点から検討を進めるため、会議の下にワーキンググループを設置する旨の指示があり、ワーキンググループの主査として金子構成員が選出された。

(5) 藤末総務副大臣ご発言

終わりに藤末副大臣からご発言があった。

(6) 閉会

以上